

令和2年度各会計決算

市長説明

前橋市



令和2年度各会計決算について、その大要をご説明申し上げます。

令和2年度は、新型コロナウイルス感染症の影響を大きく受けた激動の年でありましたが、市民の命や暮らしを第一に、感染症対策や事業者支援などに全力で取り組むとともに、「第七次前橋市総合計画」や新たに策定した「前橋市国土強靱化地域計画」に位置付けた事業、さらには、地方創生に関する事業や、まちづくりを進めるキーワードである「地域経営」についても、積極的に取り組んでまいりました。

それでは、決算の概要について、ご説明申し上げます。

令和2年度の一般会計決算額は、歳入総額が1,921億5,319万円、歳出総額が1,879億8,524万円と、いずれも過去最高額となりました。

歳入歳出差引額は41億6,795万円で、令和3年度への繰越財源を差し引いた実質収支は34億987万円の黒字となり、このうち20億円を地方財政法の規定に基づく決算剰余金処分として、財政調整基金へ積み立てました。

続いて、歳入の主な内容について、ご説明申し上げます。

はじめに、市税収入ですが、個人市民税は、株式等譲渡所得の増加などにより、前年度と比べ約2億2千万円の増額となりましたが、法人市民税は、税制改正や新型コロナウイルス感染症の影響による企業業績の落ち込みなどから、約9億4千万円の大きな減額となりました。

また、固定資産税は、新增築家屋分の評価額の増加などにより、約5千6百万円の増額となり、市税収入全体としては、前年度と比べ約5億7千万円減の535億8千万円となりました。

次に、譲与税や交付金関係ですが、地方消費税交付金は、消費税率の引き上げの効果により、約13億6千万円の増額となった一方で、地方交付税は、合併特例期間終了の影響などにより、約11億3千万円の減額となりました。

また、国庫支出金は、新型コロナウイルス感染症対策に伴う国の各種給付金や地方創生臨時交付金の増加などにより、約387億円の増額となり、県支出金についても、子育てや障害福祉など福祉関係負担金などの増加により、約3億3千万円の増額となりました。

次に、諸収入は、特別融資預託金の元金収入やプレミアム付商品券の売上収入などの増加により、111億円の増額となりました。

市債は、道の駅整備事業債や中学校の校舎改造事業債が増加したほか、新型コロナウイルス感染症の影響による減収対策となる地方税減収補填債や特別減収対策債の発行により、約8億円の増額となりましたが、令和

2年度末における一般会計の市債残高では、1,537億7千万円となり、前年度末に比べ約2億5千万円の減少となりました。

以上が歳入の主な内容であります。

次に、歳出であります。主な事業の実施状況について、第七次総合計画の6つの「まちづくりの柱」に沿って、ご説明いたします。

## 1 教育・人づくり

「個性を伸ばし、主体性を育む人づくり」、「学び合い、高め合う人づくり」では、児童生徒に対するLTEタブレット端末の1人1台配備となる「GIGAスクール」構想を進め、コロナ禍での学びの確保と情報教育の推進を図りました。

また、中学生の学習を支援する地域寺子屋事業を市内全ての中学校区を対象に実施するとともに、小学校

の教科指導講師や中学校の校務補助員のほか、特別支援学級介助員を増員し、学習環境の充実を図りました。

さらに、学校で発生する諸問題に、弁護士から法的な側面で支援を受ける「スクールロイヤー事業」を新たに開始し、円滑な学校運営に取り組みました。

学校教育施設の整備では、春日中と広瀬中の統合校である明桜中の校舎大規模改造工事や体育館新設工事が完了し、この4月に開校しました。

社会教育施設の整備では、永明公民館の移転新築に向け、用地造成工事を進めるとともに、本体建築工事に着手しました。

前橋工科大学では、引き続き校舎の空調設備改修を実施し、教育研究環境の向上を図るとともに、コロナ禍で苦しむ学生に支援金を支給し、修学支援を行いました。

「ふるさとを愛し、未来へ繋げる人づくり」では、

国指定重要文化財である阿久沢家住宅の耐震診断や臨江閣の維持補修を実施し、文化財の適切な保存に取り組みました。

また、アーツ前橋、前橋文学館では、新型コロナウイルス感染症の影響による休館もあるなか、感染対策に配慮しながら様々な企画展等を開催し、市民が芸術や文化に触れる機会を確保しました。

## 2 結婚・出産・子育て

「結婚や出産に対する支援の充実」では、民間団体と連携して独身男女の交流の場となる「縁活カフェ」を実施したほか、これまでの不妊や不育症の治療支援のうち、高額な費用のかかる特定不妊治療を行う方への支援を拡充しました。

「子育て支援の推進」、「子育てと仕事の両立支援」では、産婦へのケアに加え、産後うつ予防など母親の健康管理を目的とした新たな産婦健康診査を実施し

ました。

また、新型コロナウイルス感染症対策として、1歳6か月児健康診査を集団から個別健診に切り替えたほか、子育て世帯やひとり親世帯への臨時特別給付金を迅速に支給しました。

さらには、民間保育園や認定こども園における保育支援員の配置を新たに支援し、保育士の働きやすい環境づくりと保育体制の強化を図りました。

このほか、放課後児童クラブの増設や病児保育の継続により、働きながら子育てできる環境づくりに取り組みました。

### 3 健康・福祉

「地域包括ケアの推進」、「健康づくりと介護予防の推進」では、高齢者が自分らしく生き生きと生活できるよう、地域における生活支援体制の整備を進めるとともに、高齢者施策の総合計画となる「第8期まえ

ばしスマイルプラン」を策定しました。

また、日赤病院跡地への夜間急病診療所等の移転新築に向け、施設の設計に着手しました。

そして、新型コロナウイルス感染症対策では、市医師会、各病院等と連携して、発熱外来の開設をはじめ、市民へのワクチン接種体制の整備に迅速に取り組み、市民の健康の保持と感染拡大の防止に努めました。

また、各種健康診査及びがん検診に引き続き取り組みとともに、生活保護受給者への新たな保健指導の実施や相談体制の強化により、生活困窮者の健康増進と自立の支援を図りました。

障害者福祉では、障害のある方やその家族の生活と自立を支える福祉サービスの提供体制の確保に努めるとともに、障害者支援施設等の整備に対する助成を引き続き実施しました。

## 4 産業振興

「地域産業の基盤強化・活性化」では、新型コロナウイルス感染症の影響を受ける事業者の経営や雇用の維持を支援するため、経営安定資金の融資制度を大きく拡大するとともに、小規模事業者に対する支援金を支給しました。

また、プレミアム付商品券を発行し、市内の消費喚起と経済循環を促進しました。

企業誘致では、新たな産業用地として「西善中内産業用地」の開発を進めたほか、「駒寄スマートIC産業団地」の環境アセスメント調査に引き続き取り組みました。

「働く意欲と機会の創出」では、事業者が取り組むテレワーク環境の整備に対する補助を大きく拡充し、コロナ禍における多様な働き方の促進に努めました。

「魅力ある農林業への転換」では、農業の担い手の確保・育成のため、認定農業者等に対する施設整備や

機械の導入を引き続き支援しました。

このほか、和牛の品質向上に繋がるゲノム検査費用の助成や園芸施設の<sup>ひふく</sup>被覆材等の<sup>はりかえ</sup>張替支援、さらには、新型コロナウイルス感染症の影響が大きい畜産生産者や<sup>かき</sup>花卉生産者に対する支援金を支給し、農業生産者の経営安定化を支援しました。

また、<sup>ぶたねつ</sup>豚熱（CSF）予防対策では、市内の養豚農家に対して、ワクチン接種費用の助成や消毒薬の無償配布を行い、防疫体制の強化に努めました。

このほか、上細井<sup>ちゅうせいぶ</sup>中西部地区の土地改良事業をはじめ、老朽化した農業用水路等の長寿命化のための改修工事や、農道、林道の改修整備など農林業環境の整備に取り組みました。

## 5 シティプロモーション

「地域資源を活かした新たな観光振興」では、上武道路の新たな道の駅「まえばし赤城」について、敷地

造成工事等を進めました。

また、赤城山観光の担い手となる観光地域づくり法人（DMO）の活動を引き続き支援し、赤城南麓地域におけるスローシティの取組を推進しました。

スポーツ振興では、新型コロナウイルス感染症の影響により各種のスポーツ大会などが中止や延期、縮小となりましたが、東京オリンピック・パラリンピックのホストタウン事業を継続したほか、市民球場の拡張工事や大渡体育館の改築工事を実施し、スポーツ施設の機能の充実に努めました。

「移住・定住促進」では、移住コンシェルジュと連携した移住施策を実施するとともに、様々な分野で活動する地域おこし協力隊の活躍を通して、本市の魅力の発信に取り組みました。

「市民主体の魅力づくりの推進」、「魅力的なまちづくりの推進」では、中心市街地における民間再開発事業の支援やまちなかへの開業支援のほか、広瀬川河畔

の再整備などに取り組み、まちなか居住の促進と魅力の向上による中心市街地の活性化を図りました。

## 6 都市基盤

「都市機能の集約と拠点性の向上」では、機能的な土地利用や防災機能の向上を目指し、12地区における土地区画整理事業を引き続き推進しました。

「交通ネットワークの充実」では、地域公共交通網形成計画に基づく城南地区の地域内交通の本格運行を支援したほか、民間企業と連携し「前橋版 <sup>マ</sup> <sup>ー</sup> <sup>ス</sup> M a a S」の環境構築に取り組みました。

また、上毛線片貝駅に新たに東口を開設し、利便性の向上と利用の促進を図ったほか、<sup>かいせい</sup>回生電動アシスト自転車を活用したシェアサイクルの導入に向け、サイクルポートの整備などに取り組みました。

このほか、新型コロナウイルス感染症による外出自粛の影響を大きく受けた「バス、タクシー、鉄道」の

公共交通事業者に支援金を支給し、経営の安定化を支援しました。

道路整備では、都市計画道路や、新市建設計画及び新市基本計画に位置付けられた路線の整備を引き続き実施するとともに、橋りょう及び舗装の長寿命化修繕計画に基づく点検や補修工事を進めました。

「環境配慮型社会の形成」では、「絆でつなぐ環境基金」を活用し、家庭における新エネ・省エネ機器の導入補助の対象に、新たに家庭用蓄電池を追加するとともに、有価物集団回収に取り組む市民団体への奨励金を引き続き交付しました。

また、大規模災害時に発生するがれき等の廃棄物を適切かつ円滑に処理するため、災害廃棄物処理計画を策定したほか、新たな最終処分場の建設に向けた基本計画の策定に着手しました。

「安全・安心なまちづくりの推進」では、令和元年東日本台風（台風第19号）の対応を受け、指定避難所

となっている小中学校体育館へのテレビの設置及び屋外トイレの洋式化を進めたほか、新型コロナウイルス感染症の拡大に備え、衛生用品など対策物品を配備し、指定避難所の環境改善を図りました。

また、議会棟の改築及び防災機能の強化を図るため、市庁舎の一部改築に着手しました。

このほか、老朽化した西消防署利根分署を建替え、消防防災拠点としての機能を強化するとともに、消防ポンプ自動車などの消防車両を更新し、消防力の向上を図りました。

水道事業では、災害発生時に重要な役割を担う病院及び防災拠点などに給水する管路の耐震化を引き続き進めたほか、敷島浄水場の新たな配水塔が完成し、耐震化と災害時貯水量の向上を図りました。

下水道事業では、緊急度の高い重要な下水道<sup>かんきよ</sup>管渠の耐震化を進めるとともに、六供町の水質浄化センターの更新に向けた基本設計に着手しました。

このほかの都市基盤として、公園整備では、嶺公園内の樹林墓地の造成に着手したほか、都市公園のバリアフリー化及び総合運動公園の拡張事業を引き続き推進しました。

また、住環境の整備では、老朽化した市営住宅の改修やエレベーターを設置するなど住環境の向上に努めるとともに、空き家対策の推進にも引き続き取り組みました。

これらのほか、行財政運営の面では、令和元年度からの行財政改革推進計画に基づき、RPAの導入による業務効率の向上を図ったほか、住民サービスの向上のため「おくやみ相談窓口」を設置しました。

また、情報化の推進として、マイナンバーカードの交付体制を強化し、普及率の向上に引き続き取り組んだほか、行政手続における押印の見直しを進めました。

このほか、県内で発生したクビアカツヤカミキリの

緊急防除対策として、みやぎ千本桜や大室公園内の桜や梅への薬剤注入費用について、予備費の活用を図りました。

以上が、令和2年度に取り組んだ主な施策であります。

最後に、決算に基づく財政指標であります。財政構造の弾力性を示す経常収支比率は、地方消費税交付金の増などにより前年度から改善しており、財源の豊かさを示す財政力指数についても、単年度数値が改善し、3年間平均においても若干の改善となりました。

こうした財政指標の動向にも引き続き留意しながら、今後も健全な財政運営に努めてまいります。

本市の財政状況は、歳入面では、新型コロナウイルス感染症の影響により、市税収入などの大幅な落ち込みが見込まれており、今後の歳入状況には十分注意する必要があります。

一方、歳出面では、高齢化の進展に伴う医療や介護などの社会保障費の増加に加え、老朽化に伴う市有施設の維持管理費用等の増加も見込まれるなか、将来を見据えた大型の建設事業も進めていかなければなりません。

さらに、新型コロナウイルス感染症対策についても、引き続き、迅速に対応しなければならないため、今後も財政運営は予断を許さない状況であります。

このコロナ禍の状況においても、引き続き、第七次前橋市総合計画の将来都市像である「新しい価値の創造都市・前橋」の実現に向けて、職員それぞれが持てる能力を存分に発揮し、市民の皆さんをはじめ、民間企業や団体、大学など沢山の方々と力を合わせて、社会情勢等に応じた施策に積極的に取り組んでまいります。

議会の皆様におかれましても、引き続きご支援、

ご指導を賜りますよう、お願い申し上げます。

以上で令和 2 年度各会計決算の大要の説明を  
終わります。

